

県内市町村における休暇分散化の取組み状況

岐阜県観光企画課／教育委員会調査
・全 42 市町村／全 45 教委
・調査時点 H29.10.2

I 現在の学校休業日に関する取組み状況（平成 28 年度）

1 学校休業日の状況

*** 地域行事に関わる休業日を実施：7 教委**

- ・ 行事当日を臨時休業日として対応（2 教委）
- ・ 行事当日を授業日として参加し、別日に振替休業日を設定（6 教委） ※重複あり

*** 土日祝日に学校行事を実施し、振替休業を設定：全学校**

- ・ 参観日、運動会、校外学習、学習発表会、等の様々な学校行事による

*** 緊急対応のため臨時休業：多数校**

- ・ インフルエンザ等、台風等、への対応

2 学校休業日にあわせたスポーツ・文化・観光プログラム・イベント等の開催状況

(1) 当該地域の子どもや親子向けのプログラム・イベント等

- ・ 実施市町村なし

(2) 学校休業日を設定している他地域からの集客を目的としたプログラム・イベント等

- ・ 実施市町村なし

II 今後のキッズウィーク実施に向けた取組み状況

1 学校休業日（キッズウィーク）の設定の検討状況

① 検討状況

*** 検討中：29 教委**

H30 実施予定：6 教委 / H31 実施予定：0 教委
実施年度を検討：6 教委 / 実施の有無を検討：17 教委

* 未検討：16 教委

② 学校休業日（キッズウィーク）を検討する上での課題（抜粋）

【保護者】

- ・ 保護者が休暇を取得できるか。（企業への負担、社会的な認知不足）
- ・ 休暇が取得できない場合、子の支援や対応ができるか。（留守家庭児童教室等）
- ・ 企業や地域等が、保護者の休暇取得に対応できるか。

【教育委員会・学校】

- ・ 授業時数確保のため夏休みを短縮化したので、さらに分散化して短縮することは困難。
- ・ 夏休みの分散化のためには、エアコンの設置が必要。（財政上の課題）

【その他】

- ・ 子や保護者への効果が疑問。
- ・ 地域との連携が困難。
- ・ 社会的な認知不足。

2 キッズウィークに向けたプログラム・イベント等の検討状況

(1) 当該地域の子どもや親子向けのプログラム・イベント等

①検討状況

- ・教育委員会 [検討：6教委 / 未検討：39教委]
- ・市町村長部局 [検討：0市町村 / 未検討：40市町村 / 未回答：2市町村]

②検討する上での課題（抜粋）

【教育委員会】

- ・「連絡調整、連携、理解、協力」が課題。
(保護者、地域、担当課、商工会、観光協会、経済団体、文化スポーツ団体、等)

【観光部局】

- ・平成27年度に「家族の時間づくりプロジェクト（観光庁）」の取り組みを実施したが、学校休業日に合わせてイベント等の事業を行うためには、前年度のうちに翌年度の休業日を確定させないと、様々な面で調整が困難であるため、計画的な取り組みが必要。
- ・キッズウィークの実施を踏まえた親子参加型の集客イベントを新たに実施することは困難。ただし、既存の観光関連イベントの中で親子参加型の催事、プログラムを増やすなどの検討は可能。

(2) キッズウィークを実施する他地域からの集客を目的としたプログラム・イベント等

①検討状況（観光部局のみ）

- [検討：0市町村 / 未検討：40市町村 / 未回答：2市町村]

②検討する上での課題（抜粋）

- ・周辺には大規模な人口の都市（自治体）はなく、他の地域の長期休暇に合わせ、集客を目的にイベント等を行っても、効果は期待できないため、市町村内や学校区での取り組みを中心に取り組むことが有効。

3 その他の意見（抜粋）

【教育委員会】

- ・経済活性化や働き方の問題を学校教育で取り組むことが困難。
- ・保護者の休暇取得が見込めないまま休業日を設定することは、生徒指導や危機管理において心配。
- ・市町村単位ではなく、県単位、あるいは複数県（地方）で取り組むことではないのか。

【観光部局】

- ・キッズウィークが周知されていないため、様々な機会にPRすることが必要。
- ・キッズウィークの制度を利用し、今後の観光事業に活用していきたい。